

## アンドリュー・ナイト氏 & ヤスミン氏 — 代替法教育の専門家が来局 —

### アンドリューさん

Andrew Knight

オーストラリアのマドック大学の獣医学部に在学当時、動物実験に反対する活動を行い、「動物実験を拒否する権利（良心的拒否権）」をオーストラリアで初めて勝ち取り、動物実験をしないで獣医師になる。現在は、イギリスで「国際動物コンサルタント（ACI）」と「animals count」の代表として、動物の権利擁護や代替法の普及を広めるため、世界各国で講演や執筆活動を行なう。



### ヤスミンさん

Jasmijn de Boo

WSPA（世界動物保護協会）の16カ国の支部の教育プログラムのコーディネーターとして代替法の普及に取り組んでおり、ACIの協力メンバーとしても活躍している。

8月16日、アンドリューさんとヤスミンさんが第6回国際動物実験代替法会議に参加するため来日。その当日、JAVA事務局で、インタビューを受けてくださることになりました。「国際動物コンサルタント（ACI）」

の活動、アンドリューさんが獣医学生だった当時の様子、代替法を取り入れる意義、欧米の状況などを伺った後、ご持参くださった代替法キッドの使い方も説明していただきました。長旅でお疲れだったにもか

かわらず、終始ユーモアを交えて一つ一つの質問に丁寧にお答えくださるなど、知的で明るいお二人の人柄を窺い知る事も出来た貴重なインタビューでした。

**Q** 「国際動物コンサルタント（ACI）」はどのようなシステムで活動を行っているのですか？

**A** ACIは、国際的にあらゆるところで協力メンバー（専門知識を持っている人たちが）、動物問題の改善、福祉、キャンペーンなど、動物のために実際の経験を活かして、その知識、情報の提供を行っているところです。ACIは事務局に協力メンバーが来て仕事をするのではなく、ネットワークで世界各国の人と交流を行っています。これからも、さらに交流を深め幅を広げていきたいと考えています。

**Q** アンドリューさんは、世界各国で講演をされていますが、それにかかる旅費など、いろいろなたいへんで苦勞があるのではないですか？



**A** 旅費などは自己負担しています。1年のうち9ヶ月は獣医として働き、あとの3ヶ月は、いろいろな活動をしてい

ます。テンポラリーな獣医でいるのは、動物のための活動の時間を十分作りたいからです。

**Q** アンドリューさんは、前回2005年ベルリンで行なわれた国際動物実験代替法会議で「動物の発がん性研究：人間の発がん性の予測には信頼性に欠ける」という研究発表し、それが高く評価され、ポスター賞を獲得されましたね。このことは、JAVAの会報でも掲載し会員の方に報告しました。

**A** JAVAからお祝いの手紙をもらうなど、他の国の人たちからいろいろな励ましのメッセージをもらうことはとてもうれしく、みなさんに感謝しています。そして、それがまた大きな活力になります。

**Q** アンドリューさんは、動物実験をしないで獣医大を卒業し、獣医師になりましたが、一方、実験をして卒業した人とはどんなところに差が出てくるのでしょうか？

**A** 一般的には、卒業して獣医になったばかりの時は、誰でも失敗が怖いので自信がまだありません。しかし、私は代替法を使い、そして獣医のアドバイスと指導の下、病院やシェルターで手術などの実習をしました。動物実験をして学習した他の学生より、5倍以上もの動物の治療を行

ないました。このことが、卒業して獣医になった時に、大きな自信になりました。実験をやっている学生は、病院やシェルターへ行っての実習は必要ないと思っています。しかし、そこで犬猫の避妊手術の実習ができることはとても大事なことです。普通学生時代には1匹くらいしかする機会がありませんが、自分は23匹もの実習を行なったので、それが自信につながったのだと思います。

**Q** アンドリューさんは代替法でマドック大学を卒業されましたが、オーストラリアでは、獣医大学が何校あり、そのうちのどれくらいの大学が代替法で卒業できるようになったのですか？

**A** 現在6校あります。そのうちの4校は、2005年には動物を犠牲にしないで卒業できるようになりました。残りの2校の獣医大学も、動物を犠牲にしないカリキュラムを持っています。



**Q** ヨーロッパではどの国の獣医大学の代替法が進んでいるのですか？

**A** イギリスです。かなり前から、イギリスにある6校全部では、動物を犠牲にするカリキュラムがありません。

**Q** アンドリューさんは、世界各国の代替法の状況をご覧になってどのよう

に感じられていますか？

**A** ここ15年ほどの間に、アメリカ、オーストラリア、ブラジル、インド、ロシア、ウクライナなどで代替法は進んできました。

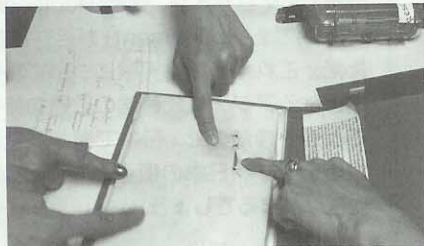
**Q** 日本では、獣医大学の教授が、欧米の獣医大学では動物実験をしないで卒業できること、また、実践されている代替法なども知っているはずなのに、「動物実験は必要で欧米で実践している方法はあくまでも補助手段である。生きた動物の使用は不可欠である。」などと教授自らがシンポジウムで発言していますが、これについて、ど

う思われますか？

**A** いろいろな意見があるとは思いますが、実際、学校の試験、成績について、代替法を使った人と使わなかった人を比較すると、代替法を使った人のグループの方が優れている結果が出ています。私自身も実験せず代替法や実習で獣医師になりましたが、技術的なことはもちろんですが、何より学生たちは代替法で教育を受けることによって、動物には苦痛を与えてはいけないという気持ちが強くなってきます。そしてそれは、優れた獣医師を育てることになります。



アンドリューさんが今回の国際動物実験代替法会議で発表するために持参された代替法キッドの使い方の説明をして下さいました。キッドの中には500回繰り返して使えたり、部分的に取り替えることも出来るものもあるそうです。



▲スキン・キッド  
大きな犬とかブタ用。皮膚を縫うための手技の練習に使います。自動車のチューブなどで出来ています。



◀ネコ

Fluffy 900ドル。ハリウッドで働いていた人が獣医と共同開発。心臓の首で20の病気を判断することが出来る。どの動物でも基本的な治療には役立ち、採血、点滴、筋肉注射、脈をとる、人工呼吸、骨折の固定ができる。左上の写真でアンドリューさんが抱いて使い方の説明をしているのがFluffy。



◀その他にも犬、ブタの胃のモデルや解説書などを見せてくださり、馬（名前はLucky、本物は実物大。）が洪水などになった時、レンジャーなどが水の中から救出するための練習用のモデルや、犬（名前はFetch）が傷を負った時（銃など）の治療練習用のモデルや、CD-ROM（カエル、魚）での解剖や手技の練習などの説明もしていただきました。

スイス、イギリス、オランダなど、ほとんどのヨーロッパのハイスクールでは生きた動物は使われていないとのこと。子供は大人が思っている以上に繊細な心で真剣に命について考えています。JAVAには、小・中・高等学校のマウス、カエルなどを

使った解剖実習に対し、「かわいそうだから、JAVAから学校に中止を求めてほしい」と訴える生徒や、獣医師になりたいが、動物実験はしたくないのでどうすればいいのかなど、進路に対する悩みや問い合わせも増えてきています。しかし、このような子

供や学生の思いに対し、残念なことに教育機関や教育現場にいる教師たちの意識があまりに低く、他の国に比べて遅れているのが日本の現状です。

アンドリューさんから  
獣医師を目指す人へのメッセージ

動物たちを治すことを学ぶために、彼らを殺す必要はまったくないのです。獣医になるために動物を傷つけたり殺したりする必要などないのです。

JAVAメンバーへのメッセージ

今の社会を、思いやりがある倫理的な社会に変えていく必要があります。これは、現在世界中の人が直面している問題でもあり、JAVAはこれら社会が抱えている多くの動物問題を改善していく役割を担っています。JAVAが率先して活動すれば必ず解決できる日が来ます。JAVAはそれを実現できる力を持った団体なのです。

アンドリュー・ナイト

今の日本の獣医大学には、動物の命を助けるために獣医師になろうとして勉強している学生に対し動物実験をさせ、動物を傷つけ、殺さなくてはならないような矛盾した教育システムがあります。そんな教育の中で学生たちが、動物を傷つけることに慣れてしまい、殺すことに麻痺してしまえば、

獣医師としての倫理観を失うことになりま。動物の命を大切に思えるこそが、誇りある獣医師になれることに疑う余地はありません。今回のアンドリューさんの話をお聞きし、代替法を学ぶことは、命を扱う獣医師としての精神的そして技術的な向上にもつながることを確信しました。獣医大

学での教育システムに、代替法や動物病院などでの実習を取り入れるよう今後もJAVAは働きかけて行きます。

通訳：秋吉 桂子、阿部 早苗  
まとめ：小川 明子